



Title	社会人初対面会話における話題選択に関する一考察： 日台中のデータをもとに
Author(s)	蔡, 謙福
Citation	大阪大学言語文化学. 2011, 20, p. 103-115
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77797
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

社会人初対面会話における話題選択に関する一考察

一日台中のデータをもとに—*

蔡 諒福**

キーワード：初対面会話、社会人、話題選択、日台中対照

This paper discusses initial face-to-face conversations by typical Japanese, Taiwanese, and Chinese adults of the same sex in their native languages and it describes the commonalities and differences that were observed in topic selection by Japanese and Taiwanese, Japanese and Chinese, and Taiwanese and Chinese.

Results of analyzing major topics revealed that the Japanese group had the fewest number of different topics and the fewest topics in total per pair while the Chinese group had the largest number of different topics and the most topics in total. The Taiwanese group had the highest rate at which topics were revisited. All three groups had a high selection rate with regard to topics about individual background and work, demonstrating that the uncertainty reduction theory was at work during initial face-to-face conversations. In addition, the selection rate peaked with hobbies and interests for the Japanese group and one's place of origin for the Chinese group. Topics that tended to surface more or less frequently were analyzed, along with minor topics, from the 5 perspectives of "prospects and plans for the future," "changing jobs," "money," "topics related to other people," and "privacy." Results revealed that the Chinese group had a high rate of selecting topics about "prospects and plans for the future" and "privacy" while the Taiwanese group had a high rate of topics related to "changing jobs," "money," and "other people." The Japanese group had a relatively low rate of selecting topics other than hobbies, and the group's conversations tended to focus on a single topic. The group had a low rate of covering topics that had already been covered and the group talked little about personal information and topics related to other people. The Japanese group often talked mainly about what one's work entailed, hobbies, and topics related to one's residence (place of origin) from an objective perspective. When discussing topics about work, the Taiwanese group talked relatively often about salary and changing jobs, and topics about money and topics related to individuals besides the speaker were also prevalent. The Chinese group was characteristic in that it talked relatively often about topics regarding prospects and plans for the future and topics related to privacy. In addition, comparison of trends among the groups revealed that the Taiwanese and Chinese groups were relatively similar while the Japanese group stood in contrast.

* A Discussion of Topic Selection during Initial Face-to-Face Conversations by Typical Working Adults : Based on Chinese, Taiwanese, and Japanese Data (TSAI Liangfu)

** 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

1 はじめに

初対面会話は良き人間関係を築くための重要な場面であるが、相手に関する情報が絶対的に不足し、何を話題にするかは個人差のほか、言語文化および社会的背景による影響もあるので、話題スキーマが異なる可能性が考えられる。文化を共有する集団には一般的あるいは典型的な知識の集合であるスキーマが共有されると考えられているが、話題選択に関する初対面会話における話題選択スキーマが共有されていると仮定する（三牧:1999、pp.49-50）。話題選択の傾向は、異文化や社会の間では共通する部分がある反面、異なる部分には違和感が生じる原因にもなりうると考えられる。一方、従来の話題選択に関する研究は、研究方法として質問紙法調査による分析〔バーランド（1979）；西田（1998）；熊谷・石井（2005）〕および会話データ分析〔三牧（1999）；張（2008）〕があるが、前者は調査対象者の意識判断によるものであり、実際の会話場面における反応や行動とは異なる可能性がある。また後者の会話データによる研究はまだ少なく、社会人を対象とした対照研究は非常に限られている。本稿では、こうした先行研究の不足点をふまえ、日台中の社会人による初対面会話データを通じ、日本語と中国語、および同じ中国語社会である台湾と中国の母語場面における話題選択の傾向を比較し、その特徴を探ってみたいと思う。

2 研究方法

2.1 データ¹と分析方法

本稿は社会人による初対面会話の話題選択に関する日本語および中国語の母語文化の特徴を明らかにすることを目的に、日本語母語話者（以下 JG）と台湾人中国語母語話者（以下 TG）、そして中国人中国語母語話者（以下 CG）による同性2名間の15分間の自由会話を録画・録音した。会話終了の直後に、話題選択に関するアンケートおよび感想についてのインタビューを実施した。中国語のデータを台湾および中国に分けて収集した理由は、台湾と中国は同じ中国語を公用語としているものの、面積や人口、社会体制、経済の発展状況などが異なっており、こうした

表1 調査データの内訳

グループ	JG	TG	CG
収集地	大阪	台北/高雄	北京
ペア数(男性/女性)	(6/6)	(7/7)	(6/6)
平均年齢	31歳3ヶ月	29歳6ヶ月	28歳7ヶ月

背景が話題選択にも多少

なりとも影響を与えていたのではないかと思われるからである。分析方法については、まず2.2の話題の定義によって各グループの会話内容を大話題と小話題に分けたうえで、大

¹ 本研究で使うデータは、筆者が研究協力者を務めた平成19年度—平成21年度科学研究費補助金基盤研究(C)「初対面コミュニケーションにおける話題管理スキーマに関する日米中韓対照研究」(研究課題番号19520458/研究代表者:三牧陽子)による。台湾人データの収集は、筆者が単独で行ったものである。

話題を通して話題選択の共通点および相違点を比較する。次に、各グループにおける大小話題の異なり・延べ選択率を比較し、各グループ間で顕著な差が見られた話題項目をいくつかの観点に基づいて考察する。

2.2 話題の定義および分類について

話題の定義について、本稿では三牧（1999）に従い、会話の中で導入、展開された内容に結束性を有する事柄の集合体を認定し、その発話の集合体に共通した概念を「話題」とする。話題は内容的に階層的な構造を示すことが多いため、特定の話題の内容的な枠の中でさらに話題が展開される場合に、上位にあたる共通した話題を大話題、下位の話題を小話題と名付ける。次に一例を示す。

＜JF1-2の会話における大/小話題項目＞

[大話題]	①自己紹介	②仕事	③年齢	④居住地
[小話題]	職種	⇒勤務地⇒仕事内容⇒国家資格⇒仕事内容⇒仕事と体力	実家暮らし⇒	
[大話題]	⑤経歴	⑥パソコン	⑦週休	
[小話題]	帰宅時間⇒前職⇒大学時の専攻⇒難しさ⇒MacとWindows⇒新機種⇒土日連休⇒不規則な週休			

この例では、合計 7 の大話題が選択され、うち 5 の大話題ではそれぞれ 2~6 の小話題が展開するという構造を示している。小話題が展開することによって、大話題が様々な観点から論じられていることがわかる。さらに、話題は会話参加者の相互協力によって選択され、展開することによってはじめて話題として認定する。したがって、一方が提供した発話にもう一方の参加者があいづちだけでそれ以上の関心を示さない場合には、単なる情報提供と見なし、話題とは認定しない。また、話題の分類手続きは、筆者と 2 名の共同研究者（日本語母語話者）、計 3 名で協議する形で行い、偏りを避けた。

3 社会人初対面会話における話題選択

3.1 話題項目

まず、各グループにおける大話題項目数（延べ）を集計した。その結果、多い順に、CG127 話題、TG118 話題、JG70 話題で総計 315 の延べ話題が抽出された。ところが、共通して選択された話題も多く、異なり話題数として集計すると、計 68 の話題項目に集約された。68 種類の話題項目のうち、TG と CG はともに 35、JG は 29 を選択した（表 2）。

表2 日台中社会人初対面会話における大話題選択リストおよび延べ選択率

カテゴリー	話題項目	ペア当たり延べ話題選択率 (%)【括弧は小話題数(回)】			カテゴリー	話題項目	ペア当たり延べ話題選択率 (%)【括弧は小話題数(回)】			
		JG	TG	CG			JG	TG	CG	
①仕事関係	仕事	133(52)	286(167)	250(68)	④他者	家族	0	0	17(5)	
	通勤	8(3)	0	0		配偶者	0	7(2)	8(1)	
	就職	0	0	8(2)		子供	0	50(11)	8(3)	
	週休	8(2)	0	0		友人	0	14(1)	0	
	会社	8(2)	8(1)	8(6)		知人	0	14(0)	42(12)	
	給料	0	14(2)	0		同僚	0	7(0)	0	
	小計	157(59)	308(170)	267(76)		小計	0(0)	92(13)	75(21)	
②個人情報	個人背景	83(1)	71(4)	125(46)	⑤趣味/ 楽しみ	趣味	25(15)	0	33(6)	
	名前	0	7(3)	8(0)		レジャー	0	7(0)	0	
	年齢	33(2)	29(0)	67(1)		運動	8(6)	14(4)	8(1)	
	性格	0	0	8(0)		習い事	25(4)	0	0	
	居住地	58(4)	43(4)	33(5)		語学学習	17(3)	0	8(2)	
	出身地	17(5)	21(0)	67(9)		新年会	8(0)	0	0	
	戸籍	0	0	8(2)		小計	83(28)	21(4)	49(9)	
	住宅購入	0	0	33(10)		恋愛	0	0	8(3)	
	小計	191(12)	171(11)	349(73)		恋人	0	0	8(1)	
③キャリア	資格試験	17(5)	0	0	⑥恋愛/ 結婚	結婚	8(0)	21(4)	25(4)	
	専門(攻)	0	50(9)	58(21)		小計	8(0)	21(4)	41(8)	
	分野	17(2)	0	0		【JG】海外旅行(2)、家電(5)、携帯(7)、服装、パソコン(3)、遊び(1)、TV番組(4)、日本観光(4)				
	出身校	8(5)	36(5)	25(2)		【TG】監視カメラ、ボランティア(1)、MRT試乗×2、台風、兵役×2(1)、召集、交通事故(2)、宗教、若者に対する見方、外見				
	経(職)歴	8(2)	14(1)	33(8)		【CG】高学歴の人(3)、服装(3)、遊び(2)、生活×2(3)、現状認識、都市の特徴(3)、交通事情×2(2)、健康(3)、地域性(3)、休日				
	計画	0	7(3)	42(13)		小計	66(26)	86(4)	100(22)	
	留学	0	7(0)	0		平均(%)	83	121	151	
	大学院	8(8)	7(2)	25(2)		話題総計	(155)	(225)	(255)	
	研究	8(5)	0	0						
	卒業年数	0	7(0)	0						
	外国語	8(3)	0	0						
	公職試験	0	7(3)	0						
	経済自立	0	7(0)	0						
	小計	74(30)	149(23)	183(46)						
⑦その他	【JG】海外旅行(2)、家電(5)、携帯(7)、服装、パソコン(3)、遊び(1)、TV番組(4)、日本観光(4)									
	【TG】監視カメラ、ボランティア(1)、MRT試乗×2、台風、兵役×2(1)、召集、交通事故(2)、宗教、若者に対する見方、外見									
	【CG】高学歴の人(3)、服装(3)、遊び(2)、生活×2(3)、現状認識、都市の特徴(3)、交通事情×2(2)、健康(3)、地域性(3)、休日									
	【JG】海外旅行(2)、家電(5)、携帯(7)、服装、パソコン(3)、遊び(1)、TV番組(4)、日本観光(4)									
	【TG】監視カメラ、ボランティア(1)、MRT試乗×2、台風、兵役×2(1)、召集、交通事故(2)、宗教、若者に対する見方、外見									
	【CG】高学歴の人(3)、服装(3)、遊び(2)、生活×2(3)、現状認識、都市の特徴(3)、交通事情×2(2)、健康(3)、地域性(3)、休日									
	【JG】海外旅行(2)、家電(5)、携帯(7)、服装、パソコン(3)、遊び(1)、TV番組(4)、日本観光(4)									

表2で示したように、話題項目は内容的にはさらに「①仕事関係」「②個人情報」「③キャリア」など6種類の話題カテゴリーにまとめることができる。延べ話題の89.8%に当たる283話題はこれら6種の話題カテゴリーに集約され、残りの10.2%に当たる32話題を「⑦その他」とした。ただし、グループによってペア数に異同があるので、話題数をそのまま比較することはできない。そのため、カテゴリーごとの話題項目および各話題項目(大話題)の延べ話題選択率を算出した。また各話題項目のもとに展開した小話題数も示している²。表2の大話題リストから、JGは趣味に関する話題、TGは仕事関係の話題、

² 「JG」「TG」「CG」は1ペア当たりの延べ選択率を示し、その数字はパーセンテージを表している。例えばCGの個人情報カテゴリーの小計は349で、それを100で割れば3.49となり、CGの1ペア当たりの個人情報に関する大話題の出現回数は3.49回であると分かる。

CG は個人情報に関する話題の選択率が高く、他者に関する話題は、TG と CG とは対照的に、JG は皆無であることがわかった（大話題の選択の詳細は次の 3.2 で論じる）。また、各グループ間の 1 ペア当たりの平均異なり大話題数と延べ大話題数についてみると、図 1 で示したように、CG はもっとも多く、JG はもっとも少ないので分かる。このほか、一度取り上げられた大話題が再度触れられた割合（話題の再生率）について、TG42%、CG23%、JG18% である。この結果、同じ会話時間でも、グループによって触れた話題数および話題再生率の差が見られたということは、JG のように話題数が少ない場合、一つの話題に比較的時間をかけて話し、そして別の話題に転換すれば、再び同じ話題に触れるることは比較的小ないことが推測される。一方の TG および CG はもともと話題数が JG より多いうえ、かつ話題再生率も高いことから、話題再生率の差は JG と TG・CG 間の話題数の差を目立たせる一因であると考えられる。

3.2 大話題項目の選択率

3.2.1 共通して選択率が高い大話題項目

表 2 から共通して選択率が高い大話題は、「個人背景」（個人情報）と「仕事（内容）」（仕事関係）である。個人情報と仕事に関する話題に触れる割合が高い理由として、初対面では、相手に関する情報が不足しているため、より円滑にコミュニケーションを図るために、会話者間の情報のギャップを埋める現象—不確実性減少理論（Uncertainty Reduction Theory）〔西田（1998）〕によるものであると考えられる。ホフステード（1995）は、50 カ国と 3 つの地域（中国を除く）の IBM 社員を対象に、あいまいな状況によって脅かされ、それを回避しようとする考え方の度合いに関する意識調査を行ったが、その結果、不確実性に対する回避指数について、日本は 92（全体の 7 位）であるのに対し、台湾は 69（全体の 26 位）であったという（p.120）。JG の 8 割以上のペアは会話開始早々自己紹介が始まった（TG と CG とも 6 割未満）ことも、この傾向を裏付けていると思われる。

ただし、個人背景の開示（または質問）の仕方およびその内容にはグループによって異なる部分があることは注目に値する。JG では、個人背景の開示はほとんど会話者の姓だけの相互開示に止まるが、TG と CG では、名前、出身地、年齢、職業などの情報を、双方または片方開示することが多かった。また、仕事の小話題に注目すると、JG は仕事内容やキャリアなどが多いのに対し、TG では、仕事の内容のほか、会社および経営者に関する事情や問題（6 ペア）、仕事の給料に触れた内容（7 ペア）も見られた。

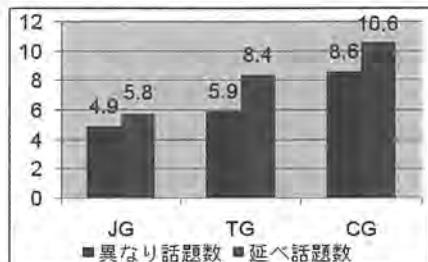


図 1 異なり・延べ大話題数(1 ペア平均)

3.2.2 選択率が異なる大話題項目

選択率が異なる大話題について、JG が TG・CG より唯一選択率が高かったのは趣味・楽しみに関する話題である。ほかに選択率の差が大きいのは、個人情報の「年齢」、「出身地」、キャリアの「専門（攻）」、「計画」、他者の「知人」、「住宅購入」がある。特に CG は出身地の選択率が突出している。CG の会話実験の協力者の出身地は、中国東北の黒竜江省から南の雲南や広西まで広く分布しており、地縁関係を重視する中国人にとって初対面会話における双方の出身地の情報は、会話をスムーズに展開する重要な手掛かりであり、本稿の会話データでも 2 種類の展開が観察された。一つは相手が自分と同じ出身地（または出身地が近い）の場合、会話者の間ではまず地縁による一つの接点ができ、心理的距離がぐっと縮まるようになり、出身地が異なっても、片方は相手と同じ出身地の知り合いがいることを伝える場合が多く、各自の出身地に関することは格好の話題となりうると考えられる。

[会話例 1] (同じ省内で距離が近い出身地)³

CM1 你是 U(省)的吗？	我也 U(省)的	我 T(地名)的	你是哪的
CM2 啊, 对, U(省)过来的	是吗↑	太巧了吧, 哈哈哈	那个 K(地名)
CM1 K(地名)的 啊, ** 回头留个联系方式吧			
CM2 嗯			
[日本語訳]――――――――			
CM1 U(省)の出身↑	僕も U(省)出身です	僕は T(地名)です	
CM2 あ、そう、U(省)から来ました	ですか	奇遇ですね	
CM1 君はどこ↑	K↑ あ、xx後で連絡方法を教えてください		
CM2 {ハハハ} あの K(地名)です uh			

[会話例 2] (異なる出身地)

CM15 那你家是哪儿的？	啊 K(省)啊, 挺远的(2)	S(省)	啊
CM16 K(省)	是, 你…	S(省)的那…S(省)我认识那个〇〇〇(人名)	
CM15			
CM16 还有我们院长〇〇(人名)不也是 S(省)的			
[日本語訳]――――――――			
CM15 実家はどこですか	あつ、K(省)か、遠いですね(2)	S(省)です	
CM16 K(省)です	そう、あなたは…	S(省)人なら…	
CM15 あ			
CM16 〇〇さんを知っています ほかにうちの学院長〇〇(人名)も S(省)人です			

³ [文字化規則]↑:上昇イントネーション、↓:下降イントネーション、{ }:非言語行動、(数字):沈黙の秒数、...:言いよどみ、xxx:意味不明の発話、～:長音

CG の会話では、以上の 2 種類の出身地に関する会話展開パターンが頻繁に観察された。また、園田（2001）は、中国における地縁関係を重視する傾向は、仕事やビジネス上にもかなり効果を発揮していると述べている。

以上、大話題の延べ選択率に基づいて、各グループの話題に触れる傾向の共通点および相違点について論じたが、大まかな概念を表す大話題の分析だけでは、表面的な傾向しか分からぬ。個人背景のように、選択率は似ているが、話題内容レベルの差が見られず、話題選択の実態を把握しきれないことがある。とりわけ異言語間の話題選択の実態を解明するには、より細かい概念を表す小話題を含めて分析する必要があると思われる。

4 五つの観点からみる話題選択傾向

本節では、話題選択の実態と傾向を解明するために、全話題の異なり選択率および大話題と小話題⁴の延べ選択率を比較し、その選択率の分布状況を確認した。そしてグループ間で出現傾向が異なる話題項目を「展望的・将来志向」、「転職」、「金銭」、「他者に関する話題」、「プライバシー」という五つの観点から分析を行った⁵。

4.1 展望的・将来志向の話題

「展望的・将来志向の話題」は、具体的には仕事、専攻の展望と発展性や、個人の計画といった話題項目である。図 2 から、TG と CG ではこの種の話題が選択されたペア数は全体の 4 分の 1 から 3 分の 1 に止まっているが、JG より選択率が高いことがわかった。JG では専門や仕事の将来性や発展性に関してはほとんど触れていない。ホフステード（1995）

による 23 カ国における人生に対する長期的・短期的志向指数に関する調査では、日本は全体の 4 位、台湾は全体の 3 位であるのに対し、中国は全体の 1 位で最も長期的志向を表しているという（p.178）。本稿における話題選択に関する考察結果でも似た傾向が見られた⁶。

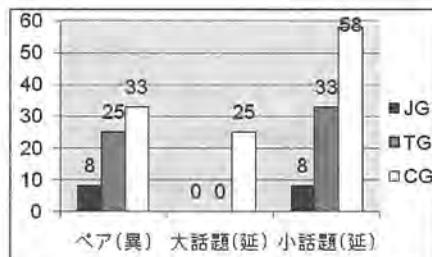


図 2 展望的・将来的志向の話題選択率(%)

⁴ 小話題数について JG は 155 小話題（1 ペア当たり 13）、TG は 225 小話題（1 ペア当たり 16）、CG は 255 小話題（1 ペア当たり 21）である。

⁵ 話題項目をどのように分類するかは、その性質によって決める。例えば「親戚の転職」といった話題項目の場合、親戚のことを「人間関係」に、転職のことを「転職」に関する話題に分類することにした。そして、TG の数値は JG・CG と比較するために、12 ペアを基準にして換算している。また、この五つの観点を取りあげた理由は、今回の会話データから観察した日台中間の話題選択の相違をよく表し、また接觸場面では違和感が生じやすい部分でもあると考えられるからである。

⁶ ただし、これはあくまで会話データに限っての結果であり、実際このような傾向がほかの面でどれほど反映されるかは本稿の論じる範囲ではない。

4.2 転職に関する話題

転職に関する話題の選択率が高い順に TG、CG、JG となっている（図3）。JG では、個人の転職について 1ペアに 1回しか言及していないのに対し、TG と CG では、転職や仕事をやめた理由、引き抜き、転職の壁および経験（TG）や、離職経験（CG）といった内容があり、家族や親せき（TG）、知人（CG）の転職にも触れていた。JG と TG・CG の選択率が異なる背景には、日本と台湾・中国における転職に対する考え方の違いに原因があり、日本社会と比べ、台湾・中国社会では転職は現状改善、場合によって個人の経験の積み重ねの手段としてプラス方向に見られる傾向があるからではないかと考えられる。

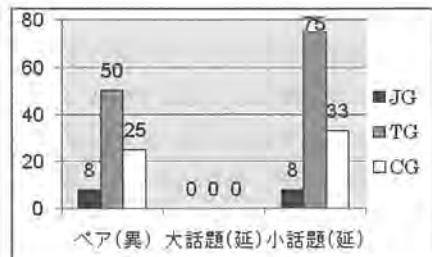


図3 転職に関する話題選択率(%)

4.3 金銭に関する話題

金銭に関する話題は、1) 趣味や交通費の出費や住宅の購入のようもの、2) 給料やボーナス、残業代に関するもの、3) 経済に関する話（サブプライムローン問題や株価、物価の上昇など）に分けることができる。JG は主に 1) の趣味の出費と交通費、TG は 2) と 3) 、CG は 1) の住宅購入と 2) が多かつた。特に TG では、この種の話題の 4 分の 3 は給料や待遇に関するものであり、話者自身のことや、業種別の給料水準なども含まれている。また、会話データの結果と話題選択アンケートの結果を突き合わせたところ、TG では半数（14人）の協力者がアンケート調査で避けたい話題として「収入」を選んだものの、そのうちの 8人が自ら給料や待遇に関する話題に触れていたことがわかった。このように TG では、自身または親族の収入に触れない限り、他人や業種などの待遇や金銭に関する話題に触れることは、さほど抵抗感がないようである。これとは対照的に、JG では「収入」に関する話題を「避けたい」と回答したのは 67%であり、会話データでも「収入」に関する話題は一切触れていないかった。こうした金銭に関する話題に触れる傾向が異なる背景には、華人社会において、待遇や儲けなどの金銭に関する話は現実味があり、比較的人々の关心の焦点になりやすい性質があるほか、台湾社会では株や投資が比較的流行っていることも一因であろう。

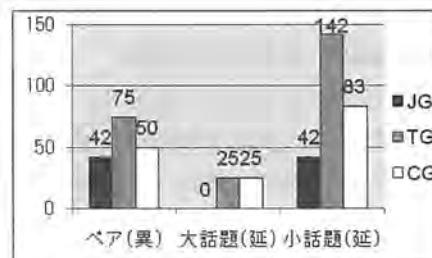


図4 金銭に関する話題選択率(%)

4.4 他者に関する話題

他者に関する話題には、会話協力者の家族、友人、知人、恋人、同僚、上司などが含ま

れている。図5から、JGの触れる割合はTG・CGとは対照的であることがわかった。三宅（1994）による「ウチ」、「ソト」、「ヨソ⁷」といった人間関係の概念から言えば、JGが触れた人の大半はウチに属する人物である。一方のTGおよびCGでは、過半数を占めたのはソトに属する人物であり、ヨソらしきの人物も少し見られた。華人社会における人間関係について、Redding（1990）は対人主義（personalism）を挙げ、華人社会では地縁や血縁が重視され、関係重視の行動を生み出していると指摘している（p.83）。初対面場面とはいえ、TGとCGの会話では、家族や友人、知人、仕事関係の人間に関する話題がJGよりも多いのは、こうした地縁や血縁を基盤とした対人主義への重視が大きな原因ではないかと考えられる。

【会話例3】（父と親戚の転職）

TF14 嘴妳在做什麼工作啊 保險 在那一間 F社啊 我爸爸也是做保險，他在那個 A × …

TF13 保險耶 嗯 F社啊 嗯

TF14 呃，不是，B社他之前在A社然後來轉到B社 因為…他覺得B社的那個制度比較好（中略）

TF13 呃 為什麼 （中略）

TF14 真的喔

TF13 那個誰啊，我那個…我阿姨之前也是做A（会社）的 後來也是不做了到別間去做

【日本語訳】

TF14 じゃお仕事は 保険か↓どの会社？ F社か↓ 父も保険をやっています、その…A社…uh-違う

TF13 保険です uh F社 uh

TF14 B社です 前はA社にいたけど、後B社に転職した B社のほうは制度がいいと思ってたみたい

TF13 oh なぜですか

TF14（中略） 本当↑

TF13（中略）誰だっけ、私の…おばさんも前はA社にいたけど その後やはり辞めて別の会社に行きました

会話例3では、TF13の職種と会社の話題から、TF14の父親およびTF13のおばさんの仕事と転職の話題にどんどん転換していた。また、TGとCGの会話では、ある事柄について話し手が特定の人物を交えながら話すことがJGより断然に多いことから、会話では話者以外の人物の言及は重要な特徴の一つと言えよう。

4.5 プライバシーに関する話題

プライバシーに関する話題は、年齢、恋人、結婚、出身校などに関する情報が含まれる。JGの8割は年齢、2割は結婚に関する話題である。TGとCGは、結婚、年齢に加え、出身校に関する話題が多く、友人のうつ病（TG）、恋人の有無や付き合うきっかけ（CG）。

⁷ 普段自己と関係なく、それに関する情報も少なく、どう思われても支障がない相手のこと。

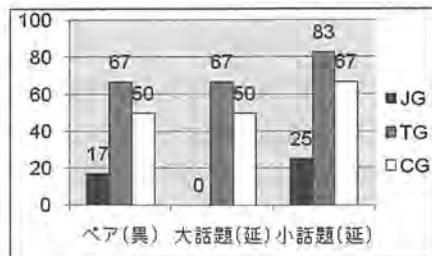


図5 他者に関する話題選択率(%)

自分と家族の性格 (CG) などの話題も見られ、JG よりプライバシーに関する話題が多く見られた。また大小話題の延べ選択率の合計を比較すると、CG は JG の 6.4 倍、TG の 2.7 倍となり、突出していることがわかる。4.4 の 他者に関する話題と比較すると、TG は人間関係に触れる範囲が広いという特徴があるのに對し、CG は会話協力者がプライバシーに関する情報をより多く開示（または要求）している傾向がある。次の CG による会話例は、一方の会話者は相手に恋人の有無を聞いたうえ、その結婚を予測したような内容である。

[会話例 4] (結婚と恋人)

CF11 没结婚吧↑[笑] 有朋友了吗↑[笑] 有朋友吗↑[笑] (1) [点头] 那就是下一步, 马上快了 嘴淮↑他上学
 CF12 没呢 嗯↑ 有 [点头] 还上学呢 [手捂着嘴巴笑]

【日本語訳】

CF11 結婚はまだですね↑(笑い) 恋人います↑(笑い) 恋人いますか(笑い) (1)[頷く}じゃ、
 CF12 まだですよ 由↑ います[頷く]
 CF11 次のステップ、もうすぐですね あ、誰↑彼が学校に通ってる↑
 CF12 まだ学校に通ってますよ(笑いながら手で口を覆う)

TG および CG ではこの種の話題が頻出した背景には、主に 3 つの理由があると考えられる。一つ目の理由は、中国語社会では家族意識が強く、親族関係が比較的密着するほか、「友(知)人」、「同僚」に関する概念も、心理的な面でより身近なものとして捉えられていることが挙げられる。二つ目の理由は、中国語社会におけるポジティブ・ポライティス、また対人関係のあり方が話題選択にも反映されることである。そのため、初対面でもお互いのことに関心を持ち、個人情報だけでなく、話者以外の人物のことにもよく言及している。三つ目の理由は、話題選択は話者個人の主体性をより重視するか、それとも場面に対する配慮をより重視するかである。JG では、人間関係やプライバシーに関する話題の選択率が低いのは、会話者双方が初対面という疎遠的な場面に重点を置き、それに対する配慮が自然とこうした話題選択の方向を導いたと考えられる。一方の TG と CG では、ペアによって人間関係やプライバシーに関する話題が多かったり少なかつたりすることから、その話題に触れるかどうかは場面といった要素より、むしろ話者個人が会話の状況や相手の反応によって弾力的に調整していると言えよう⁸。話題の範囲が広い場合、人を中心とし

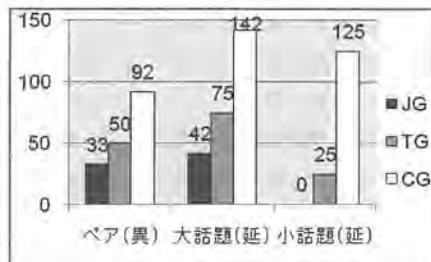


図 6 プライバシー情報に関する話題選択率(%)

⁸ JG の会話者双方による事前回避とは異なり、こうした個人の主体性に基づく話題選択は、場合によっては一方の会話者にとって好ましくない展開の可能性が JG より高いと予想される。TG と CG の会話データでは、こうした個人差によるやり取りや調整の内容は少し観察されたが、JG のデータでは類似した内容はまったく見られなかった。

た情報開示によってより親近感を与える効果があり、狭い場合には、お互いの領域に配慮しながら会話を進められると考えられる。

5まとめ

以上の分析に基づき、3つのグループによる話題選択の共通点および相違点を次の表3にまとめた。

表3 本稿におけるJG・TG・CGの話題選択の共通点および相違点

共 通 点	<p>[JG・TG・CG共通]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報および仕事関係に関する話題の選択率はともに高い割合を占めている <p>[TG・CG共通]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報や他者に絡む話題が頻出する一方、社会性のある話題も見られる ・疎的な場面による制約は少なく、ペアによって話題選択範囲は広く、多様化が見られる
	<p>[JG対TG・CG]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JGは話題数が少なく、話題再生率も低い。また名前(姓)、居住(出身)地以外の個人情報の開示も少ないが、仕事内容や専門、趣味・楽しみに関する話題に絞り、そこから派生した話題を客観的な立場から触れる話題内容が多い ・金銭に関する話題について、JGは選択率が低く、趣味の出費や交通費に止まっているが、TGは選択率がもっとも高く、大半は仕事(職業)の給料や待遇に関するものであり、CGは給料のほか、男性ペアによる住宅購入(値段)に関するものが多い ・JGのほうは、疎的な場面であることが話題選択に制約を与えており、TGおよびCGより話題選択の範囲は限られ、物事や事実の説明といった内容が会話の中心となっている <p>[TG対CG]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なり/延べ話題数はともにCGのほうが多いが、話題の再生率はTGのほうが高い ・転職、金銭、他者に関する話題はTGが、プライバシーに関する話題はCGが高い選択率を示している。またCGのほうは、年齢、出身地、専門と分野、経歴、計画などの個人情報や、知人、恋愛や結婚と関係する話題が比較的多い

話題選択の出現傾向については、JGは話題数が少なく、お互いに個人情報や他者に関してはあまり多く語らず、仕事、趣味、居住(出身)地に関する話題を、説明や紹介など客観的な立場から話すことが多かった⁹。JGでこのような話題が目立った背景には、初対面の相手に対する配慮の結果として、お互いの個人(プライバシー)情報に触れないか、触れてもその程度を最小限に抑えたことがあると考えられる。一方のTGとCGは、比較的共通性が高いが、より詳細にみると違いが見られる部分もあった。TGは話題の再生率が高く、金銭(給料)や仕事(転職)の話題、他者(家族)に関する話題の出現割合が目立つ。一方、CGは話題数が多く、展望・将来的志向に関する話題やプライバシーに関する話

⁹ 物事を客観的な立場から触れた話題内容は3つのグループとも見られたが、1ペア当たりの平均発話時間を集計した結果、JGは7.3分、TGは4.1分、CGは3.2分と、JGはTG・CGの平均のほぼ2倍である。

題が多かった。また、「兵役」、世界経済に絡んだ話題（以上 TG）や、「戸籍」、「一人っ子」、「住宅」、「物価」に関する話題（以上 CG）など、社会性を反映すると思われる話題が見られた。こうした話題が出現した背景には、台湾の兵役制度や、中国特有の戸籍制度と一人っ子政策、また近年の急速の経済発展を背景に、都市部を中心とした住宅ブームや物価上昇現象が考えられる。アンケート調査では、「事件」、「社会」、「国際」といった社会性に関する話題項目に対し、避けたい話題に選んだ割合はほぼ同じ（JG:14% / TG:15% / CG:17%）だが、適切な話題（JG:17% / TG:59% / CG:44%）および話しやすい話題（JG:8% / TG:27% / CG:19%）の結果では、JG と TG・CG とは違いが見られた。

以上の分析では、JG の話題の選択範囲が比較的狭く、TG と CG は話題の選択範囲が相対的に広いことがわかる。本稿と同じ会話データで自己開示を分析した三牧（2010）でも、日本人ペアは事実のレベルのみを開示することが中心であるのに対し、中国人ペアは身近な事柄から社会問題まで様々な問題に関して自己の見解を開示し、自信を持って堂々と述べる例が多く、さらにプライベートな領域についても日本語がもっとも広く、中国語はもっとも狭いと述べている（p.37）。

以上の分析をふまえ、3 グループの話題選択の範囲に関する概念を示したのが図 7 である。中心の色の濃い部分は、話者が守りたがる心理的テリトリーの範囲で、灰色の部分は話題選択可能な範囲である。実線の円は平均的話題選択の基準であり、その内と外の点線の円との幅は、話者の個人差や会話の流れによって話題選択範囲は縮まったり拡がったりする範囲である。また外にある空白部分は触れない話題の範囲である。

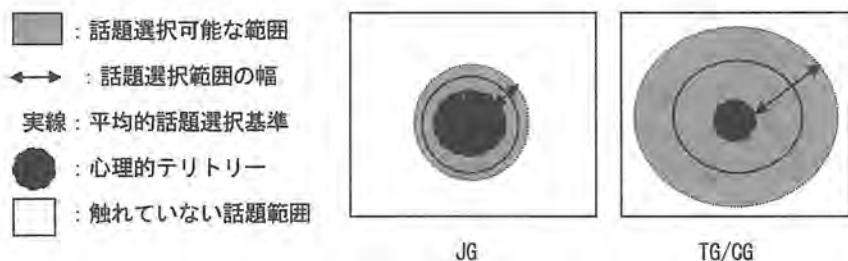


図 7 JG および TG/CG による話題選択範囲に関する概念図

図 7 では、話題の人物への親疎および物事に関する話題選択可能な範囲は、JG は比較的狭いのに対し、TG と CG は個人差や会話の流れによって比較的広いことを示している。また、外側の空白の部分は、触れられていない話題選択範囲を示し、その広さは中心の疎的な場による制約の大きさと正比例している。JG のように前者が広ければ、後者も広くなり、反対に TG と CG のように前者が小さければ、後者も狭くなると考えられる。初対面の後、重なる接触によって親近感が増えるにつれ、話題選択範囲はもっと拡大し、触れない話題範囲も小さくなると考えられる。こうした話題選択基準および選択可能な範囲に関する異文化間における認知上の違いは、接触場面における話題選択の差異による違和感が生じる一因ではないかと思われる。

6 おわりに

本稿では、会話データおよびアンケートによる調査結果により、日台中3つのグループの初対面会話における話題選択の特徴の一部を明らかにした。今後の課題として、話題選択アンケート調査およびインタビューの結果を加え、話題選択に影響を与える文化や社会の背景や価値観、また異なる年齢層の対象者など、多角的な分析を行いたい。

参考文献

- Redding, S. G. (1990) *The Spirit of Chinese Capitalism*. de Gruyter.
- 熊谷智子・石井恵理子「会話における話題選択—若年層を中心とする日本人と韓国人への調査—」『社会言語科学』8-1、2005、pp.93-105
- 佐々木由美「異文化間コミュニケーション研究としての相互作用分析」『社会言語科学』4-2、2002、pp.57-69
- 園田茂人『中国人の心理と行動』日本放送出版協会、2001
- 張 瑜珊「台湾の女子大生同士と日本の女子大生同士の初対面会話の対照分析—会話の内容について」『日本語言文化研究: 日本学框架与国際化視角』清华大学出版社、2008、pp.451-465
- 西田 司『異文化の人間関係』多賀出版、1998
- バーンランド, D. C. 西山千・佐野雅子訳『日本人の表現構造—公的自己と私的自己・アメリカ人との比較—』サイマル出版会、1979
- ホフステード, G. 岩井紀子・岩井八郎訳『多文化世界—違いを学び共存への道を探る』有斐閣、1995
- 三宅和子「日本人の言語行動パターン—ウチ・ソト・ヨソ意識—」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』9、1994、pp.29-39
- 三牧陽子「初対面会話における話題選択スキーマとストラテジー—大学生会話の分析—」『日本語教育』103、1999、pp.49-58
- 三牧陽子『初対面コミュニケーションにおける話題管理スキーマに関する日米中韓対照研究』平成19-21年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書、2010